

## ● 全国初の大型の福祉仮設住宅での生活が開始される

### ～ 北海道厚真町

昨(2018)年 9 月に発生した北海道胆振東部地震により被災した(社福)厚真福祉会 厚真リハビリセンターは、施設の移転改築を余儀なくされ、その間、福祉仮設住宅において利用者支援を行うこととなりました。本年 1 月末に福祉仮設住宅が完成し、利用者の受け入れが完了したことを受け、全国身体障害者施設協議会(日野 博愛 会長/以下、身障協)では、2 月 25 日(月)に日野会長が現地を訪問しました。

今般、建設された全国初となる大型の福祉仮設住宅は、4 人部屋が並ぶ「居住棟」5 棟(うち 3 棟は特養)と、事務室、機械浴槽 3 台が設置できる大型の浴室や、厨房が入る「集会所棟」1 棟からなり、6 棟すべてを渡り廊下でつなぎ、屋外へ出ることなく、行き来できるよう設計されています。

居室は、本来の施設の設備基準に準拠し、車いすやストレッチャーで通りやすいよう入り口や廊下の幅が広く、手すりも設置されています。また、各所にファンヒーターや照明が設置され、非常に暖かく明るい環境となっています。

発災直後から福祉仮設住宅が完成するまでは、北海道内の他の障害者支援施設 8 か所に利用者が分散避難をし、厚真リハビリセンターの職員が避難先の施設に片道 1 時間から 2 時間をかけて通勤し、支援を行っていました。

利用者も慣れない環境のなかでの生活を余儀なくされ、職員も通勤の疲労や勤務体制の都合等により、十分な休息を取ることができない状況でしたが、今般の福祉仮設住宅の完成により、慣れ親しんだ厚真町で生活することができるようになり、利用者や職員には笑顔や活気が戻ってきました。

また、厚真リハビリセンターの支援に際しては、北海道社会福祉協議会、北海道身体障害者施設協議会が、利用者および職員の受け入れを行っている施設に対し、職員派遣等を実施するなど、平成 23 年に締結した災害支援協定に基づいた対応がなされました。

さらに、厚真福祉会、厚生協会、陵雲厚生会の三法人による災害支援協定が東日本大震災後に締結されていたことから、それに基づき、発災直後より利用者の受け入れが迅速に行われ、発災当日中に、全利用者がいずれかの施設に避難することができました。平時から三法人の間では合同研修や情報共有が行われていたため、災害発生時に慌てることなく、双方の職員同士が連携して利用者への支援にあたることができたといえます。日頃の取り組みが大きな力となりました。



福祉仮設住宅の外観

身障協では、今般の取り組みを含め、これまでの災害時の取り組みをあらためて整理し、今後の災害発生に備え、各ブロック、各都道府県、近隣の法人間の連携強化に向けた支援を推進していくこととしています。

**[【全国身体障害者施設協議会】](#)**

↑ URL をクリックすると全国身体障害者施設協議会のホームページへジャンプします。